

# 第3回 福岡空港回転翼機能移設事業に係る 環境影響評価事後調査委員会

(議事要旨)

日時：令和5年2月21日(火) 13:30～15:30

場所：福岡空港事務所 2F 会議室

出席委員：

田村 耕作 (日本野鳥の会 福岡支部 副支部長)

畠 佐代子 (全国カヤネズミ・ネットワーク 代表)

松藤 康司 (福岡大学 名誉教授)

吉久 光一 (名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

**議事要旨：**

## 1. 福岡市環境影響評価に係る手続きの経緯について

- ・資料1「環境影響評価条例に係る手続きの経過報告について」について、事務局より説明を行い、最終年度として内容の了解がなされた。

## 2. 環境保全措置及び事後調査結果(第3期：令和4年度)及び総括について

- ・資料2「令和4年度 事後調査計画について」、資料3「環境保全措置及び事後調査結果」及び資料4「事後調査結果(総括)」について、事務局より説明を行ない、以下の質疑及び助言が行われ、事後調査結果について了解が得られた。

### 【個別的事項】

#### ■資料2-P2

委員：航空機騒音の写真中のマイクロホンの高さが「約1.2m」と書いてあるが1.2～1.5mの間で設定しなさいとなっていることから「約」はいらぬ。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

#### ■資料2-P5

委員：表のタイトル「スケジュール(案)」の「案」は不要。令和5年度だけ「令和5年度(予定)」とする。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

#### ■資料3-P2

委員：「ヘリポートの供用に伴う騒音の発生状況を確認した」とは何か。「ヘリポートの供用」とはヘリコプターが離着陸しなくてタキシングしたりすることなどを確認したのか。

事務局：航空機騒音の測定の中に、ヘリポートの供用時に発生する関係車両等を含む音も含めている。また、暗騒音のような形で、それらの測定結果も調査しており、ヘリコプターの運航だけではなく、施設の供用的な部分の音も含めているという意味。

委員：航空機騒音の状況を環境基準と比べて環境として捉えているため、「発生状況」の「発生」はない方が誤解は少ない。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

委員：「…事後調査は環境基準を満足している」ではなく「…飛行等の状況を確認した」とした方が良い。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

#### ■資料 3-P6

委員：ヘリコプターの離発着回数で、当初想定したのは上位10%で34回だったが、事後調査の第1期は42回と異常に高い。この理由は何か。これは移設してすぐのため、試験飛行などを行ったのではないか。

事務局：具体的に何かの事件や事故などが起きたのではないかと色々と調べたが理由が分からなかった。（後日、機材の定期点検で同じ機材が何回も離発着するテストフライと判明。）

#### ■資料 3-P8

委員：事後調査の三つ目の黒丸、「施設の運用に当たっては、……安全性に影響がない範囲で、横風及び静穏時はなるべく北側を利用した離着陸となるように努力されている」とあるが、エビデンスがきちんと報告書に書かれるのか。エビデンスがないと困るし、環境保全措置では、「横風及び静穏時については北側の離陸とする」と書かれている。それは検証のしようはないのか。

事務局：資料は配付していないが、実際測定した190機程度のヘリの測定データがあるが、そのうち真横になった風と静穏これらの時に実際どう飛んだのかを整理している。真横になった時にどちら側に飛んだかという、全部北側に飛んでいる。どういったものが飛んでいるかという、ほぼ報道、輸送、巡視でありルールを守っている。

一方で、横風だったが南側を使ってしまったものには、少しだけ報道と輸送が入っているが、消防、ドクターヘリ、警察となっており、緊急であったのではないかと推測できる。基本的に生命等に関わるものに関しては、最短で飛んで行かないといけないため、横風なのだけど（南側に市街地があるため）南側を使ってしまおうといったものが少し交じったと言えるのではないか。それ以外は北側を使っているということと言える。

委員：救助とか緊急を要するような人命に関わるような場合には、南側に行っていることが分かれば良いと思う。環境保全措置として挙げたけれど、やはり人命優先のことがあるから南側に行くこともあることがデータを基にいえれば良いため、「なるべく」や「努力されている」の表現を修正して頂きたい。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

#### ■資料 3-P8

委員：「横風、静穏時においてはなるべく北側を利用した離着陸となるように努力されている」

とされているが、根拠を具体的な数値として示すべき。出来れば調査時のみならず3年間のデータを集計して欲しい。

事務局：全期間（3年間）の離着陸データ5,500件×3年分と2分単位の気象データとを照らし合わせてしたうえで分析し、結果は、事後調査報告書に記載する。

#### ■資料3-P10及びP23

委員：③の飛行等の状況に対するコメントは、時間帯や飛行回数等についても記載した方が良い。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

#### ■資料4-P3

委員：カヤネズミについては、保全措置が上手くいって繁殖も確認でき、さらには管理の目処も立ったことは非常に良かったと思っており、パンフレットを配るだけではなくホームページ等でも広く公開した方が良いのではないかと。私の知る限り、このような航空関係のアセスで保全措置を行って、カヤネズミの繁殖でうまくいったという例はない。

事務局：ご指摘を踏まえ、積極的に公開していきたい。

委員：草地性鳥類のセッカの繁殖も確認されたことは、非常に生態系としては良い方向に行っているためもっと強調しても良い。表現方法で、「チガヤ群落へ植生が変化した」というのは、工事をやることによって変化したのではなく、わざわざ植生のためにセイタカアワダチソウを抜いたり色々工夫して作ったものであり、関係者が作ったことを強調した方が良い。

事務局：ご指摘を踏まえ、記載内容を修正する。

委員：総括ということで、騒音、超低周波音のほか陸生のカヤネズミ、それから鳥類、生態系の報告ですけれども、何かコメントとかございませんか。

委員：カヤネズミについては随時報告頂いていたが、保全措置はうまくいって繁殖も確認でき、さらには管理の目処も立ったということで、非常に良かったと思う。

委員：確かに今度の総括はこういうことで良いが、最初の頃、ヘリによる魚への影響やサーチライトによる影響について実機を飛ばして問題なかったということ、海外では事例があるが多分全国でもあまりやったことないと思われるが、それをどこかに記載しておかなくて良いのか。他省庁であれば絶対そんなことをしないため、実際にヘリを飛ばしてサーチライトの明かりによる海の生き物に対する影響も調査したことを追記した方が、よりこの環境アセスメントの重みが出てくると思う。

事務局：おっしゃるとおり、国として非常に丁寧に丁寧にやってきたことは事実であり、魚への影響や、光による影響について実機を飛ばして調査したことも事実。今回の事後調査報告書に関しては、評価書の時点で事後調査計画を立て、不確実性が高いものについて事後調査する調査項目を決め、その項目についての報告となるため、基本的にそこに記載されたもの以外の項目について追記することは、事後調査報告書の中ではないと思慮する。

委員：読む人たちの多くは、多分この総括の内容しか読まないと思われる。細かく書かなくて

も、これに関しては、何のどこ参照などの工夫があっても良いのではないか。

事務局：今回のこの調査や委員会の報告書は私どもにとっても貴重なノウハウだと思っており、  
学术论文にあったことを元に実機飛行したこともうまくまとめて、これを他の空港や他の分野でも引き継いでいけるようにしたい。

委員：是非お願いします。

### **3. その他**

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

以上